

ソロモン諸島初訪問記

——ホニアラの中国人集住地とチャイナタウンを歩く

河合 洋尚

高まる中国のプレゼンス

2024 年 2 月 4 日から 6 日にかけて、筆者は初めてソロモン諸島に渡航した。今回の旅路の主な目的はバヌアツへの三度目の訪問であったが、ソロモン諸島を一目みておきたいという衝動に駆られ、2 泊 3 日でソロモン諸島への初訪問を決行した。

筆者がソロモン諸島に関心を抱いたのは、この国がオセアニアと中国の関係を知るうえでますます重要な位置を占めるようになってきているからである。2019 年 9 月、ソロモン諸島は台湾と断交し中国本土（以下、中国）と国交を結んだ。近年、中国はソロモン諸島における開発援助をますます促進するようになってきている。今回はそうした様相をこの目で確かめるべく、首都ホニアラの町中を歩いた。



写真1 中国の開発援助による建設事業。左は 2021 年に着工された新国立競技場、右は現在建設中の医療センターの入り口（2024 年 2 月、筆者撮影）

ホニアラでは、中国の開発援助が目に見える形で表れている。たとえば、2023 年 11 月開催のパシフィック・ゲームズ（南太平洋諸国が参加する総合競技大会）に向けて、広大な新国立競技場が中国資本の手により建てられた（写真 1）。その入り口には、中国語と英語で「中国援助

China Aid」の文字とマークが刻まれている。その他にも、町中を走る救急車、ゴミ収集車などでも「中国援助」の文字がみられた。

ホニアラの町中では、中国人経営の店舗が数多くみられ、特に中央市場前には中国人が経営する雑貨店や飲食店が集中している。郊外でも中国人経営の店舗が並んでおり、なかでも空港から中心街の間には、中国系の雑貨店や飲食店などが集中し、中国語がいたるところで飛び交っているエリアもある。彼らは中国各地から移住しており、筆者が聞き取れない方言（つまり標準中国語や広東語、客家語ではない言語）も頻繁に聞かれる。

チャイナタウンの現在

ホニアラでは中国系移民が集まり、チャイナタウンかと錯覚するようなエリアが点在している一方で、「本家本元」のチャイナタウンは物寂しい様相を呈している。

ホニアラには、中心街から東に少し外れたエリアにチャイナタウンと名づけられているエリアがある。2024 年 2 月に観察した限り、このエリアでは中国人らしい人影はまばらに見かけられる程度であり、中国風の建物が立ち並んでいるわけではなく、半ば「廃墟」のようであった（写真 2）。



写真 2 チャイナタウンの遠景(左)と近景(右) (2024 年 2 月、筆者撮影)

W・E・ウィルモット [2012: 524] によると、ソロモン諸島に定住しはじめた中国系移民は広東省中部・開平の出身者である。中国系移民の数は第二次世界大戦前から徐々に増加していき、チャイナタウンが繁栄していった。だが、2006 年 4 月、首相選挙に中国系の富裕層が関与

していたという噂を聞きつけたメラネシア系住民が憤り、チャイナタウンの建物を破壊するという事件が起きた。さらに、2019年にソロモン政府が中国と国交を結ぶと、一部の住民の間で強い不満が沸き起こった。2021年11月には台湾と親交の深かったマライタ島の住民らがチャイナタウンを襲撃し、建物に放火したのだという。

今ではかつてここにあったとされる中国系の商店やレストランのほとんどは、見る影もなくなっている。今回観察した限りでは、中国系住民が経営している店舗を2件しか見つけることができなかった。また、チャイナタウンには中華学校があるが、中国ルーツの生徒は減少しているのだと聞く。広東省広州市出身のある地元女性は、次のように述べる。

「2021年の襲撃でチャイナタウンは焼かれてしまい、ここには中国人がほとんどいなくなりました。中華学校の生徒も多くは『土著』（中国語でメラネシア系住民を指す）の子になっています。すでに中国人の血を引く生徒は3分の1もいなくなったのではないのでしょうか。昔のチャイナタウンは見る影もありません」。



写真3 チャイナタウンにある中華学校（2024年2月、筆者撮影）

だが他方で、2月4日（日曜日）の午後には、中華学校横のプレハブで春節（旧正月；2月10日）の獅子舞の練習をしている中国系の生徒の姿もあった。残念ながらソロモン諸島で春節を過ごすことができなかったが、この中国系の青少年少女たちの舞う獅子は、侘しくなったチャ

イナタウンを練り歩くのだろうか。そのようなことを考えながらソロモン諸島を発った。

参考文献

ウィルモット、W・E 2012 「ソロモン諸島」リンパン（編）『世界華人エンサイクロペディア』（游仲勲監訳）明石書店、pp.524-525。

注記：本調査は、文部科学省科学研究費補助金「中国—南太平洋島嶼国関係の変化と『オセアニアン・チャイニーズ』像の表出」（基盤研究 C、河合洋尚代表）の経費による。

（かわい・ひろなお 東京都立大学）